【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	川崎市立南河原小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	１５	２１
児童数	６５	７２	７２	６９	７３	６６	１１	４２８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

主体的に活動する子どもの育成

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

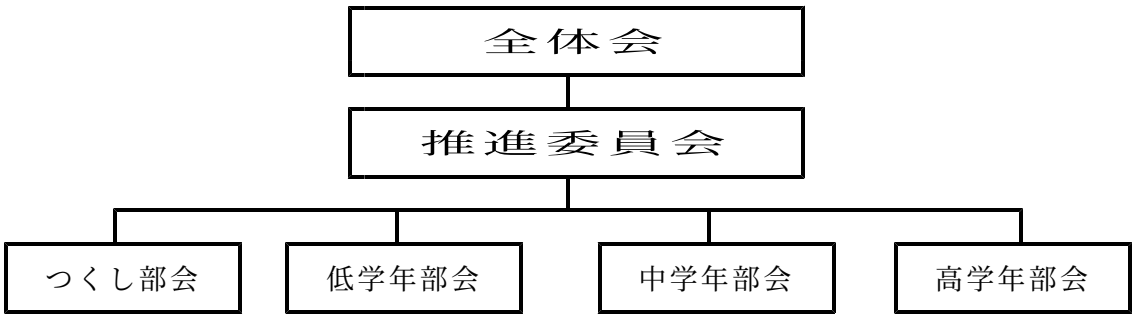
・全学年・算数
指導内容の系統がはっきりしているため
これまでに、少人数学習やＴ・Ｔなど、多様な形態で学習を行ってきている教科であるため
全学年で取り組める教科であるため

（２）　年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ サブテーマ「子ども一人一人が確かな学力を身につける学習を求めて」 ○研究の見通し（仮説） ・子どもの実態を適切に把握し、子ども一人一人に寄り添った指導（支援）を行うことによって、確かな学力が身につき、本校の育てたい資質・能力が育まれるであろう。（子どもの自己評価と教師の見取りを大切にして学習を創っていく） ○研究の内容・方法 ・「育てたい資質・能力」「学力」についての共通理解 ・「めざす子ども」の実態の把握 ・教育課程の見直しと創造 ・個に応じた指導法（評価と支援）の開発 ・学習環境の整備

平成16年度	○テーマ サブテーマ「子ども一人一人が確かな学力を身につける学習を求めて」 ○研究の見通し（仮説） ・子どもの実態を適切に把握し、子ども一人一人に寄り添った指導（支援）を行うことによって、確かな学力が身につき、本校の育てたい資質・能力が育まれるであろう。 ○研究の内容・方法 ・個に応じた指導法（評価と支援）の開発 （学習形態の工夫、自己評価力の育成、教材の開発、教師の指導力・評価力の向上） ・学習環境の整備 ・研究の評価

（３）　研究推進体制



○全体会　・・・　共通理解、研究計画等の決定、授業研究、研修

○推進委員会　・・・　研究計画等の立案・提案、連絡調整、
研究だより「わかぎ」の発行、資料の整理と保管

○学年部会　・・・　活動案の検討・作成、授業実践、「単元配列表」の作成
「単元一覧表」の作成、子どもの学習状況の把握、
教材の開発、学習環境の整備、評価規準の作成と見直し

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

共通理解　**研究をすすめていく上で、もとになる考え方や内容についての共通理解が図れた。**
（単元を構想するときに共通理解したことをいかすことができた）

○共通理解（再確認）した内容　「育みたい資質・能力」　「本校の考える学力」
「（算数科の）関心・意欲・態度」　「数学的な考え方」
「子どもを見取る方法・観点」　「かくことの重要性」

学習形態　少人数学習をすすめるためのポイントやそれぞれの学習形態のよさが見えてきた。

○均等分割
・発言の機会が増える。
・教室内の活動スペースが広がる。
・子ども一人一人の学習状況を把握しやすい。

○課題選択学習（選択・設定）
・自らの課題を追究できる。（必要感のある学び）
・課題を選択（設定）した根拠を明らかにすること。
（学習のふり返り・自己評価を参考にする）
・教師の見取りも取り入れて選択すること。
・追究する時間と場所を保障すること。
・子どもたちが情報交換できる場を設定すること。

○コース選択学習（習熟度・内容・方法）
・学習したい内容つけたい力を重点的に学習指導することができる。
・設定されたコースの意図（内容や流れ等）を子どもに明示すること。
・コースを選択した根拠を明らかにすること。
（学習のふり返り・自己評価を参考にする）
・教師の見取りも取り入れて選択すること。
・必要に応じて、コースの変更ができるようにすること。

自己評価　子どもたちが、自らの学習を客観的にふり返るようになってきた。

学習に対する自己評価を継続して行ってきたため、子どもたちが自らの学習を客観的にふり返るようになってきた。この「ふり返り」は、課題選択やコース選択をする際の重要な資料として活用することができた。また、指導計画を見直す資料としても活用することができた。

○ふり返る内容　「学習の理解度」　「学習の満足度」　「気づき」
「疑問点」　「さらに追究したいこと」　等

２．今後の課題

個に応じた指導の充実を図るために

○子どもの実態や変容を正確に把握する方法を探る。
・子どもを見取る観点の拡充
・学習の変容がわかるような資料作り（個人カルテ）
・子どもとの対話の充実
・学力調査、学力アンケートの継続と分析

○少人数学習のより効果的なすすめかたを探る。
・教師間の共通理解（子どもの実態・単元目標　等）
・課題や設定するコースの吟味
・的確なコース説明（教師のねらいと子どものめあての一致）
・学習環境の整備

○自己評価力を高める方法を探る。
・自己評価カードの項目の検討
・自らの学習の経過がわかるようなノート作り
・友だちとの相互評価の取り入れ

○個に応じて教材（課題）を工夫する。
・補充や発展教材の開発
・オープンエンドの課題の取り入れ

○教師の指導力・評価力の向上

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○教師間による情報交換
・学年部会や全体会などで、子どもの実態や変容に関する情報交換を積極的に行った。

○子どもの「見取り」についての共通理解
・「数学的な考え方や態度」等、学力に関する研修会を実施し、見取る内容や方法についての共通理解を図った。

○教科学力調査（算数科）の実施（１２月）

○学力アンケートの実施（１２月）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○研究報告会
・日　時　　平成１６年２月１７日（火）　１３：３０～
・場　所　　川崎市立南河原小学校　　川崎市幸区都町１８
・対　象　　川崎市内の小学校、幸区内の中学校・高等学校
・研究テーマ　　主体的に活動する子どもの育成
ー　子ども一人一人が確かな学力を身につける学習を求めて　ー
・会の目的　　・本校の研究の取り組みを発表し，成果などについて報告するとともに、参会者からいただいたご意見を今後の研究に生かす。
・講演会を通して、今後の研究の方向性について検討する視点を得る。

○研究紀要の配布　　作成した研究紀要を市内の小学校や幸区内の中学校・高等学校に送付し、成果の普及を図る。

◇　次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。（複数チエック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
■１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ・Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　■算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無